

2025年1月発表  
半導体・FPD製造装置

需要予測

(2024年度～2026年度)

2025年1月16日

**SEAJ**

一般社団法人日本半導体製造装置協会

## 予測の概要

この予測は、半導体製造装置及び FPD 製造装置の需要動向に関して、一般社団法人日本半導体製造装置協会(略称 SEAJ、会長 河合 利樹)の半導体調査統計専門委員会及び FPD 調査統計専門委員会による需要予測と SEAJ 理事・監事会社 20 社による市場規模動向調査結果を総合的に議論・判断し、SEAJ の総意としてまとめた結果である。

半導体製造装置について、2024 年度の日本製装置販売高は、前年度から継続した中国市場の投資に加え AI 関連を中心としたメモリー投資回復により、前年度比 20%増の 4 兆 4,371 億円と予測した。2025 年度はロジック・ファウンドリー、DRAM それぞれに案件ごとの強弱はあるものの、全体では堅調な投資が予想されるため、5%増の 4 兆 6,590 億円とした。2026 年度も AI 関連における先端半導体の需要拡大が期待できることから、10%増の 5 兆 1,249 億円と予測した。

FPD 製造装置については、2024 年度は韓国での G8.6 クラスの基板を使った OLED 投資が開始され、市場も順調に回復していることから、30%増の 3,351 億円と予測した。2025 年度は中国での G8.6 基板 OLED 投資タイミングを精査した結果、3%増の 3,451 億円と予測した。2026 年度は韓国、中国共に G8.6 基板 OLED が本格化するため、10%増の 3,796 億円と予測した。

(1)予測期間 2024年度～2026年度の3年間 (2024年度:2024年4月より2025年3月まで)

(2)予測項目 半導体製造装置の「日本製装置」及び「日本市場」販売高  
FPD製造装置の「日本製装置」販売高

(3)予測の背景

### (半導体産業)

WSTS(世界半導体市場統計)によれば、2024 年の世界半導体市場は、メモリー価格上昇が大きな要因となり、11 月までの累計で前年比 19.8%増と大幅に回復、通年で過去最高となる 6,268 億米ドルに達する見込みである。2025 年もメモリー市場、ロジック市場共に順調な伸びを予想しており、昨年 12 月の発表では、2025 年全体で 11.2%の増加を予想している。

メモリー各社の業績は 2023 年1Q(1～3 月)のボトムから総じて上昇を続け改善した。一方足元では AI サーバー以外の需要回復が鈍く、在庫調整により一時的に汎用 DRAM や NAND の価格は下落に転じる動きがみられるが、25 年後半以降に需要回復と共に在庫調整が完了し、再び価格の上昇が期待される。引き続き AI サーバー向け GPU と HBM の需要は極めて旺盛であり、データセンターの消費電力を抑えながら演算能力を高めるためには、次世代品への移行が必須となっている。現在、特定企業に需要が集中する GPU も、徐々に選択肢が広がってゆくと予想する。

AI 機能を PC やスマートフォン端末に搭載するオンデバイス(エッジ・ローカル)AI については、CPU、GPU、NPU(Neural Processing Unit)をワンチップにまとめ、消費電力を抑えながら高度な AI 処理を実行する。2027 年に向け、AI 機能を最大限に生かすソフトウェアの普及やアプリケーションの拡大が見込まれ、2nm ロジックプロセスの量産が軌道に乗るタイミングに合わせて、市場が本格的に立ち上がると考えられる。AI 機能強化のためには、DRAM も高容量化、高速化が求められるため、オン

デバイス AI はロジック、メモリー双方にプラスの影響を与える。

2024 年度の半導体製造装置市場については、中国市場での既存および新興メーカーによる汎用品への投資に加え、AI 関連を中心とした先端半導体の投資が拡大したことにより、前年比で大きく成長して着地する見込みである。

2025 年度については、車載・パワー半導体投資の減速懸念や、中国の新興メーカーにおいては新規装置の購入に比べて購入済み装置の立上げや稼働率向上への注力が予想される一方、AI 向け半導体の需要拡大と、そこで求められる高性能化や低消費電力化、大容量化に向けた GAA、Backside PDN、高積層メモリーなどの技術進化に伴い先端投資が拡大し、今年度に対してプラス成長が見込まれる。

また 2026 年度については、AI サーバーに加えてオンデバイス AI のアプリケーション拡大に伴う、PC、スマートフォン用半導体の需要増加に向けた投資拡大が期待される。

世界半導体市場は 2023 年の 5,268 億米ドルから 2030 年には 1 兆ドルに到達すると予想されており、半導体製造装置も同様に中期的な高い成長率が見込まれている。

#### (FPD 産業)

FPD 製造装置を取り巻く環境は、2023年Q2(4～6月)以降多くのパネルメーカーが業績改善傾向にあるが、韓国の1社を除いては利益水準としては厳しい状況が続いている。TV用のLCDパネル価格は、2024年春頃に上昇したが夏には低下、現在は最大市場である中国の省エネ家電補助金制度の効果もあって価格は持ちなおしている。

2023年暦年としての設備投資額が前年同期比で半減の水準にまで落ち込んだ影響もあり、2023年度の日本製FPD製造装置販売高は39.8%減と振るわなかった。その反動もあって、2024年度の日本製FPD製造装置は大きく回復する見通しである。

韓国においてはIT製品搭載に向けたOLED用G8.6基板の投資が始まっており、タブレット(11.1・13型等)の採用を始めとして、将来的にはPC(14.2・16.2・13.6・15.3型等)へのOLEDパネル搭載が計画されている。2025年度には中国でもG8.6基板のOLED投資が開始される。ITパネルでのOLED採用計画自体は当初想定より若干後ろ倒しになっており、2025年度の投資計画も一部分は2026年度へスリップする見込みである。

スマートフォン(6.1～6.9型)と比較し、ITパネルは1台当たりの面積が6～7倍以上と大きくなることから、今後LCDからOLEDへの置き換えが進めば、G8.6基板での工場建設増加が期待される。

#### (4) 予測結果

##### **【半導体／FPD製造装置・日本製装置販売高予測】**

2024年度は、半導体製造装置が20%増、FPD製造装置が30%増、全体で20.7%増の4兆7,722億円と予測した。2025年度は、半導体5%増・FPD3%増と前年比で伸び率は緩やかになるとみており、全体で4.9%増の5兆41億円とした。2026年度は、半導体・FPDともに10%増を見込んでおり、全体で10.0%増の5兆5,045億円と予測した。

#### **【半導体製造装置・日本製装置販売高予測】**

2024年度は、前年度から継続する中国市場の好調さと AI 関連を中心としたメモリー投資回復により、昨年7月発表時を5ポイント上回る20%増の4兆4,371億円とした。4兆円を超えるのは、今回が初めてである。2025年度は中国向け比率の低下、台湾を除く先端ロジック・ファウンドリーや DRAM 案件について投資姿勢の強弱を精査した結果、5%増の4兆6,590億円とした。2026年度は全分野で AI 関連半導体の需要押し上げ効果が本格化することから、10%増の5兆1,249億円と予測した。

#### **【半導体製造装置・日本市場販売高予測】**

2024年度は、政府による補助金効果や大手ファウンドリーの堅調な投資はあるものの、慎重な投資姿勢に転じたパワー半導体等の状況も考慮し、7%増の1兆2,232億円と予想した。2025年度は複数の大手ファウンドリー投資が重なり、メモリー投資も大きく復活が期待されることから、30%増の1兆5,902億円と予測した。2026年度も高い伸びで投資が継続されるため、20%増の1兆9,084億円を予測した。

#### **【FPD製造装置・日本製装置販売高予測】**

2024年度は、韓国でG8.6基板を使ったOLED投資が開始されたことや、不振となった2023年度の反動といった要素もあって、30%増の3,351億円と予測した。2025年度は韓国に加えて中国でもG8.6基板でのOLED投資が開始されるが、ITパネルでのOLED採用計画は当初想定よりも若干後ろ倒しになっているため、実際の投資タイミングを精査して3%増の3,451億円と予測した。2026年度は韓国と中国でG8.6クラスのOLED投資が本格化する見込みであり、10%増の3,796億円とした。

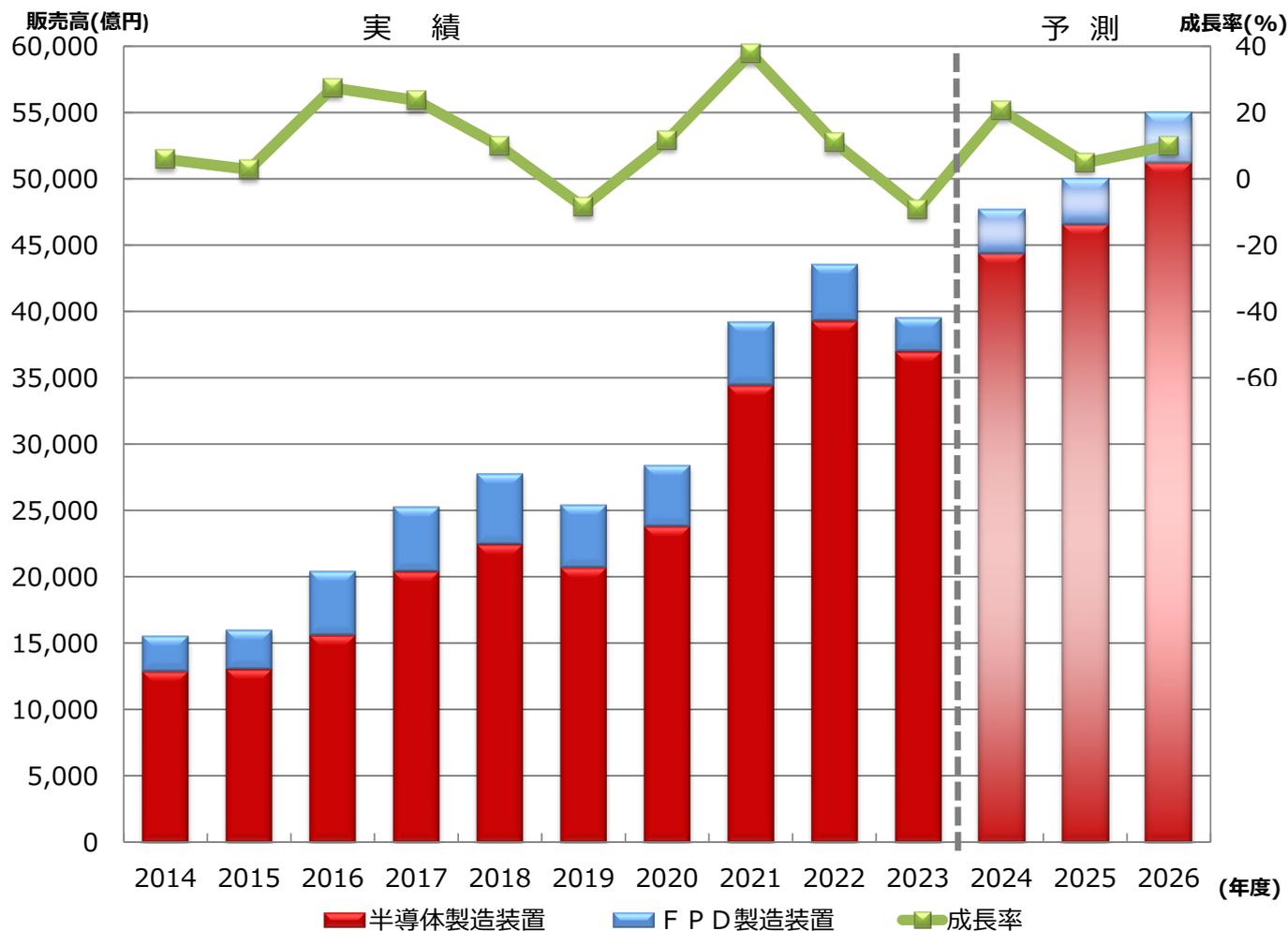
-以上-

## 2025年1月 半導体及びFPD製造装置 需要予測

### ■ 1. 半導体及びFPD製造装置 全装置予測

#### 【日本製装置販売高予測】

\*「日本製装置販売高」とは、日系企業（海外拠点を含む）の国内及び海外への販売高です。



(CAGR : 2023年度 - 2026年度)

年度	実績										予測			CAGR
	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	
半導体製造装置	12,921	13,089	15,642	20,436	22,479	20,730	23,835	34,430	39,275	36,976	44,371	46,590	51,249	11.6%
FPD製造装置	2,717	2,993	4,857	4,916	5,364	4,758	4,638	4,809	4,282	2,577	3,351	3,451	3,796	
合計(億円)	15,638	16,082	20,499	25,352	27,843	25,488	28,473	39,239	43,556	39,553	47,722	50,041	55,045	
前年比成長率(%)	5.9	2.8	27.5	23.7	9.8	-8.5	11.7	37.8	11.0	-9.2	20.7	4.9	10.0	

\* 当協会の許可なく、この報告書を転載又は複写すること、公表または公表を補助することを禁止します。

\* 2019年度はFPDの統計参加企業に変動がありました。統計参加企業の変更対象社名と金額は非公表です。

## 2025年1月 半導体及びFPD製造装置 需要予測

### ■ 2. 半導体製造装置

#### 【日本製装置販売高予測】

\*「日本製装置販売高」とは、日系企業（海外拠点を含む）の国内及び海外への販売高です。

販売高(億円)



(CAGR : 2023年度 - 2026年度)

年度	実績										予測			CAGR
	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	
合計(億円)	12,921	13,089	15,642	20,436	22,479	20,730	23,835	34,430	39,275	36,976	44,371	46,590	51,249	
前年比成長率(%)	14.6	1.3	19.5	30.6	10.0	-7.8	15.0	44.4	14.1	-5.9	20.0	5.0	10.0	11.5%

#### 【日本市場販売高予測】

\*「日本市場販売高」とは、国内向日系企業及び国内向外资系企業製造装置の販売高です。

販売高(億円)



(CAGR : 2023年度 - 2026年度)

年度	実績										予測			CAGR
	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	
合計(億円)	5,000	6,562	5,047	8,138	9,878	6,961	8,009	9,103	11,412	11,432	12,232	15,902	19,084	
前年比成長率(%)	36.9	31.2	-23.1	61.3	21.4	-29.5	15.1	13.7	25.4	0.2	7.0	30.0	20.0	18.6%

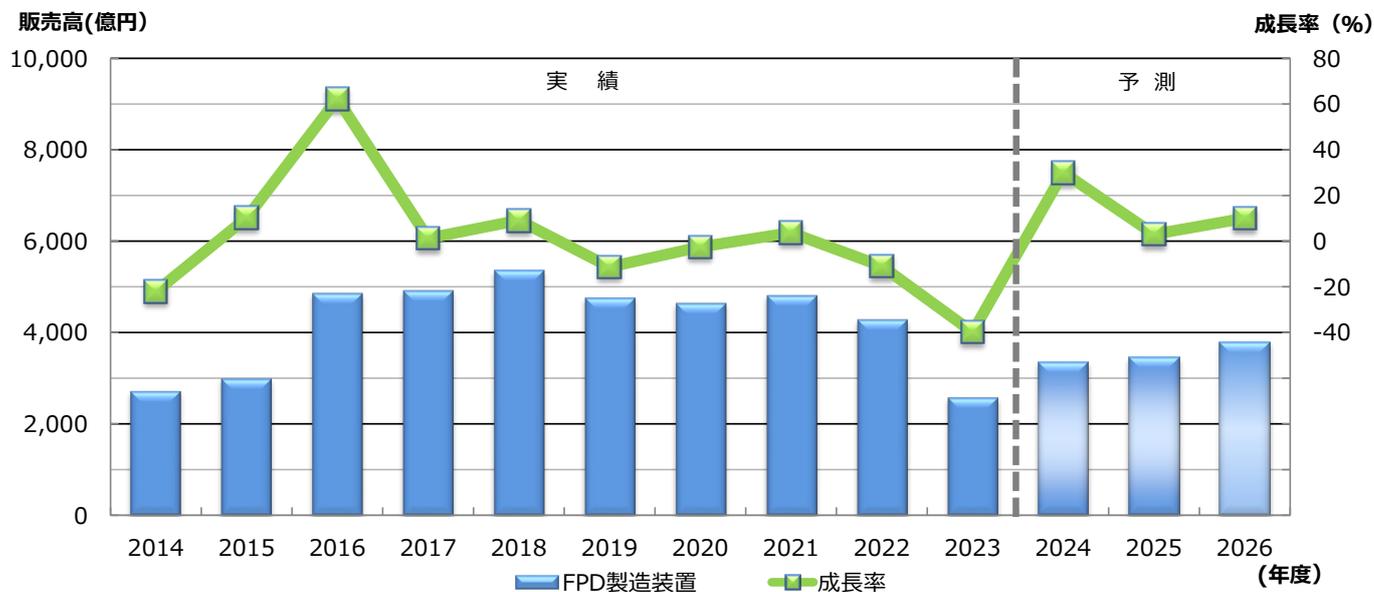
\* 当協会の許可なく、この報告書を転載又は複写すること、公表または公表を補助することを禁止します。

## 2025年1月 半導体及びFPD製造装置 需要予測

### ■ 3. FPD製造装置

#### 【日本製装置販売高予測】

\*「日本製装置販売高」とは、日系企業（海外拠点を含む）の国内及び海外への販売高です。



(CAGR : 2023年度 - 2026年度)

年度	実績										予測			CAGR
	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	
合計(億円)	2,717	2,993	4,857	4,916	5,364	4,758	4,638	4,809	4,282	2,577	3,351	3,451	3,796	13.8%
前年比成長率(%)	-22.0	10.2	62.3	1.2	9.1	-11.3	-2.5	3.7	-11.0	-39.8	30.0	3.0	10.0	

\* 当協会の許可なく、この報告書を転載又は複写すること、公表または公表を補助することを禁止します。

\* 2019年度はFPDの統計参加企業に変動がありました。統計参加企業の変更対象社名と金額は非公表です。